

令和5年度 神奈川県立大師高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

日時 令和5年11月7日(火) 13時35分～15時25分

場所 大師高等学校 会議室

出席者 学校運営協議会

鈴木(伸)委員 原委員 竹之内委員 熊木委員

[学校側]

校長(副会長) 副校長 教頭 菅原総括教諭 廣田総括教諭 白倉総括教諭

青柳総括教諭 邨上教諭 山下総括教諭

【第1部】 全体会 13:35～14:25 *司会:亀田教頭
2グループに分かれて授業を見学(各年次「総合的な探究の時間」)

【第2部】 部会 14:35～1:25 *司会:亀田教頭 *書記:佐藤教諭
※人数の関係で2つの部会に分けず、全体会形式で実施

○各グループからの中間報告

(生活G) 4月から現在までの生徒の様子について

(総務G) 校内美化、PTAについて

(研究広報G) 総合的な探究の時間、学校ホームページ、学校説明会について

(サポートG) 学校行事、部活動について

(キャリアG) 進路活動状況

(カリキュラムG) 新カリキュラム、授業研究について

○全体協議

(委員) 就職した学生をみると、主体的に発言する者が少ないように感じる。会社でも他社の若者とディスカッションをおこない、外からの刺激をうけて主体的に発言できる人材を育成するようにしている。

「総合的な探究の時間」は、自分の興味・関心のあるテーマの探究で、生き生きと目を輝かせながら発表していたのが印象的であった。

(委員) 在県外国人の生徒の日本語指導について、生徒のやる気を出させるために先輩とのつながりを作ることが必要である。

(委員) 初めて大師高校の生徒の授業を見たが自信を持って発表しており、聞く側もしっかりと聞いていて質問をしていた。普段の指導が行き届いている印象を受けた。教員と生徒との関係が良いと感じた。

主体的に考える能力を養うために話し合う場を多く設定し、行動できるようにしてほしい。高校と中学校の授業見学及び研究の交流は少ない事例なので続けてほしい。

(委員) 3年次の発表について、総合学科時代からの発表スタイルで非常に良い。テーマの設定の仕方から難易度の高い探究活動の発表へと生徒のやる気を持続させる指導が行き届いているように感じた。生徒のモチベーションは大切であり、知好楽を感じられる瞬間を作るのが教員として大事である。

(学校) 今年の3年次の探究活動の発表についてはやや不安であったが、しっかりと発表してくれた。本校も決して順風満帆とはいえないが、多様な生徒に対して声を掛け、話を聞く機会を増やして生徒に寄り添った対応をし続けたい。

(委員) 家庭環境が複雑だがエネルギーを持っている若者も多い。社会に出たら良い方向に力を発揮してほしい。

(委員) 多様な生徒を受けいれてくれる大師高校は、中学校側としてはありがたい。大師高校はがんばっていると思う。また、この地区は外国籍の生徒が多く、価値観の違いや言葉の問題でうまく伝わらないケースもある。大人（教員）の支援が必要である。

(委員) 高等教育の学費の支援はどうか。

(学校) 高等教育への支援はあるが、完全にはカバーできていない。予約奨学金を申し込む生徒は多いが、就職後に支払いが長く続く状況を説明している。

(委員) 高卒だと給与が少ないと思われるが、現場での仕事は需要もあり給与も高い。さらに技能を身につけることで仕事は多くある。

(委員) 外国籍の生徒の在留資格について、30%~40%は家族滞在で大学を目指す生徒も多いが、現実的には言語力や基礎学力がついていけない。

○閉会のあいさつ 学校長

委員の方々のそれぞれの立場から本校に対してのご意見を頂戴した。人前で話すのが苦手、考えをまとめるのが苦手など本校は多様な生徒が多い。このような生徒を抱える本校に対して、今後も地域とのつながりをもっと太くするため、忌憚なきご意見をいただきたい。様々な問題を抱えている生徒に対して寄り添い、「大師高校で良かった」といえる形で生徒を送り出したい。